きれいな水を求めて

小川、井戸水、湧水利用から水道へ 湖北の「水」と生活を振り返る。

湯水のごとく使う…そんな「表現」があるように、現在の日本では水は簡単に手に入るものと思われています。しかし、実際はそうではありません。「命の源」とも言えるきれいな水の確保は昔から大変な苦労の連続でした。その土地ごとにさまざまな工夫と手間が重ねられてきました。余呉町の中河内と上丹生、そしてびわ町の十九の例から、先人たちの苦労の様子を探ってみました。

▲ガッチャンポンプ（取っ手の部分を上下させ、地下水を汲み上げる）

■取材にご協力くださった皆さま

▲丸岡 文士さん（まるおか たけし）
昭和11年生まれ
びわ町十九在住

▲酒井 絹江さん（さかい きぬえ）
昭和5年生まれ
余呉町上丹生在住

▲高橋 なかさん（たかはし なか）
明治44年生まれ
余呉町中河内在住

川の水を家々へ引きまわす「小川」で上水を確保

びわ町では昔から高時川の水とともに暮らしがありました。井戸を掘って伏流水も利用されたのですが、金気（水中に溶けて含まれている鉄分。鉄気とも書く）の多い水がほとんどで、あまり役に立たなかったからです。

「大昔は高時川まで直接水を汲みに行っていたようですが、明治20年代ごろから『小川』と呼ぶ小さな水路を今の水道のように使う形になったんですよ」（びわ町十九・丸岡丈士さん）

高時川から幅1.0～1.5m、深さ30cmほどの小川を家々の敷地を順に通るように引いて、これを上水として利用したのです。小川は各家の敷地のところで小さくせき止められ、その「たまりの部分」で水汲みや洗顔、野菜洗いなど、日々の水仕事が営まれました。

「家の小川に面した作業場を『セド』（カワドとも呼ぶ）と呼んでいました。朝一番の水がきれいなうちに飲用水をここから汲み上げ、台所の瓶（かめ）に溜めるのが各家のお嫁さんの役目でした。小川は大切な“ライフライン”です。子供のころから『水を汚してはいけない』と言われ続けてきましたね」（丸岡さん）

セドの周りは各家できれいに保ち、年二回は村人総出で小川の水をきれいに保つようにしてきました（川普請（かわぶしん））。洗濯など小川を汚す行為はもってのほかでした。

その後、川から竹のパイプで各家へ水を引くようになりました。家々では直径約1mの入れ物（木や石で枠をつくり、下部は石を敷き詰めたもの）に水を溜めて、長さ約2mの大きなヒシャクで汲んで使ったそうです。

「昭和30年代に水道が整備されてからはとても便利になりました。金気の多い井戸水から解放され、それはうれしかったですよ」（丸岡さん）

飲み水は井戸でも、川の水が暮らしの中心

一方、余呉町上丹生では井戸水がよく使われていました。金気の少ない井戸水の出るところがあったからです。

「私の家には井戸がなかったので、学校から帰ると隣の家から水をもらい、家の大きな水壷（みずつぼ）をいっぱいにしてから畑仕事を手伝いに行くのが日課でした。洗い物や風呂の水など飲み水以外は川の水が中心でした。雨で川が濁ると雨水をトユ（樋（とい））から集めて使い、冬の川では一面に積もった雪に穴を開けてヒシャクで汲んだのを覚えています。風呂の水を川から汲んでくるのは大変でした。隣の家と交互で風呂を沸かし一緒に使う『ゆい風呂』の習慣もありましたよ」（余呉町上丹生・酒井絹枝さん）

洗濯では「洗い」こそ桶を使いましたが、「ゆすぎ」は川。川を汚さないために、子供のオムツは在所の外れの最も川下で洗うなどの約束ごとがありました。

「ゴム手袋みたな便利なものはありません。冬は水が冷たくて手が痛く、オムツにお湯をかけてから川へ持っていったものです。手をオムツで温めながらゆすぎました」（酒井さん）

当時は小学校でも「水汲み当番」がありました。5、6年生が二人一組でガッチャンポンプから井戸水を汲み校内の水槽まで運ぶのです。冬はガッチャンポンプがよく凍ったので、遠くにある屋内ポンプまでいかなければなりません。大変な手間をかけて水を確保していたのです。

「水道ができて、本当に『ありがたい』の一言です」（酒井さん）

谷やマンポ（トンネル）のきれいな湧水の活用も

比較的良質の井戸水に恵まれていた中河内でも、暮らしの多くの部分は谷の湧き水や川の水に依存していました。

「『あみ谷』と呼ぶ近くの谷にきれいな水が湧いてましてね、食器洗いから洗たく、風呂にまで使っていましたよ。飲み水や調理の水は『いけ』と呼ぶ井戸水を使いました。いずれも夫婦してバケツで家に運んだものです」（余呉町中河内・高橋なかさん）

高橋さんの実家では川沿いの山肌に「マンポ」と呼ぶトンネルを掘って、そこに湧く水を使っていたといいます。

「雨で川の水が濁ったときなどは近所の人がこのマンポの水をもらいに来ます」（高橋さん）

方法はそれぞれ異なりますが、どの地域でもきれいな水の確保にはひとかたならぬ苦労をしてきました。水道はこうした苦労から人々を解放しただけでなく、金気や濁水がなく、伝染病の危険のない安全な水を実現してくれました。水はみんなの共有する大切な資源であり、水道水も限られた資源です。上流で利用した水を下流の人々が使うという基本的な成り立ちは変わりありません。感謝の心を忘れず、水を大切に使っていきたいものですね。

▲ツルベと井戸

◀セド

▲小川